

福岡市地域包括ケア情報プラットフォーム(福岡県福岡市)

ICTを活用した健康先進都市の実現 ～配る福祉から支える福祉へ～

(care4FUKUOKA【ケアフォーフクオカ】プロジェクト)

急速な高齢化が進む中、各市町村では団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、住まい・医療・介護・予防・生活支援などのサービスが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を推進

【実現に向けた課題】

- 疾病予防と健康増進, 介護予防を中心とした行政施策の推進
- 関係者の負担軽減に向けた家族・医療・介護関係者間の連携
- 高齢化の進捗に合わせた在宅サービス等の拡充・創出



【課題解決に向けた取り組み】

4つのシステムで構成される情報通信基盤

「福岡市地域包括ケア情報プラットフォーム」を構築

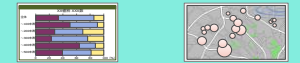
(1) データ集約システム (careBASE)



福岡市の保有する「住まい・医療・介護・予防・生活支援」に係る情報を集約

分析・共有・提供を実現するためのビッグデータを管理

(2) データ分析システム (careVISION)



医療・介護のクロス分析、データを地図上にシミュレーション マッピング

エビデンスに基づく施策の企画・立案を支援

【福岡市地域包括ケア情報プラットフォーム】

(3) 在宅連携支援システム (careNOTE)



ケア対象者の生活状況を関係者間でリアルタイムに共有

医療や介護事業者の負担を軽減しケアサービスの質を向上

(4) 情報提供システム (careINFO)



インフォーマルケアサービスなどの社会資源情報を地図と組み合わせるWeb上で公開

生活していく上で必要となるサービスや資源を幅広く提供

積極的なビッグデータの利活用により、

「健康寿命の延伸」・「地域経済の活性化」・「行政コストの削減」を同時に実現！

【定性的効果】

- (1) 医療、介護、健診などに係るデータを住民情報に紐づけて管理・集約 → **ライフログに基づく、ビッグデータの効率的な利活用が可能に！**
- (2) エリアごとの現状分析や医療・介護・健診の相関分析を実現 → **科学的エビデンスに基づく効果的な施策の立案・改善を実現！**
- (3) 在宅ケア関係者向けに行政の持つ介護認定情報とSNSを提供 → **専門職間の情報共有を実現し、行政側の事務負担も軽減！**
- (4) 介護保険外サービス情報の収集・提供のためのWebサイトを構築 → **行政によるインフォーマルサービスの把握と提供を同時に実現！**

【定量的効果】

- ・在宅ケアの充実(介護離職減少・健康寿命延伸)により、高齢者の就業率を1%増加(2020年度目標) **36億円/年の経済効果**
- ・エビデンスに基づく医療・介護予防の推進により医療費(後期)の増加を5%改善(2020年度目標) **4億円/年の医療費負担軽減**